

運営推進会議開催報告書

下記事業所について、次のとおり運営推進会議を開催したことを報告します。

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
サービス種別	看護小規模多機能型居宅介護		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 開催日時・場所

日時	平成30年7月13日13時30分～14時00分	場所	医師会館理事長室
----	-------------------------	----	----------

3. 出席者

氏名	分野	備考(所属・従事経験など)
木下 均	地域住民の代表者	牛久保西町内会 会長
松本 裕	地域住民の代表者	中川地区民生委員児童委員協議会 会長
成田 真一	当該サービスに知見を有する者	中川地域ケアプラザ 所長
堀元 隆司 (欠席)	当該サービスに知見を有する者	堀元歯科医院 院長
斉木 和夫	当該サービスに知見を有する者	斉木クリニック 院長
小林 雅子	当該サービスに知見を有する者	小林クリニック 副院長
小川 憲章	当該サービスに知見を有する者	小川メディカルクリニック 院長
池村 明広	市の職員又は地域包括支援センターの職員	都筑区役所 高齢者支援課係長
大山 学 (欠席)	法人代表	
吉井 涼子	管理者	
宮島 佳代	看護主任	
石濱 千秋	計画作成者	
羽後 みゆき	介護リーダー	
後藤 瑞佳 (欠席)	事務	
加藤 萌子	事務	

4. 活動状況報告

別紙のとおり

(裏面あり)

5. 活動状況に関する評価・意見・要望

1) 収支報告について

・3年目でここまで来て立派、利用者が重度で家に帰ることが出来ない人もいる。今のナーシングホームは、療養型か病院のようになってしまっている。利用者を選べるようになると職員の身体・心の負担も補えるのではないが。デイサービスがおざなりになってしまうが、24H対応していることで今後に繋がる。臨機応変に動ければと思っている。目先のことだけでなく先を見通して取り組んでいってください。

・繰り入れ金を貰って収支がとんとんなら立派だが、まだ、借入金があるなら、まだまだ頑張らないと

2) インシデント報告について

・ベッドの操作は認知症だと危険なんですね。

・インシデント・アクシデントは一つの原因だけじゃない、鎖のように原因が繋がって起きてしまう。どこもそうだと思うが、ヒヤリハットなどで共有し、風通しの良い環境にしていければ、少なくなるだろう。

3) その他

・8月から自己負担の変更で、3割負担の方は利用をひかえるという動きになりますかね？

6. 評価・意見・要望に対する考え・取組

1.) 収支報告について

・登録者24名を目標達成にむけて頑張る。来年も決算報告をさせてもらう。

2) インシデント報告について

・認知症の方の場合は、手の届くところにあると動かしてしまいますので配慮が必要になる。

3) その他

・3割負担だと、15・16万になり、施設入所と同じくらいの金額になるため、これからシビアになっていくと思われる。

7. 地域からの情報提供

特になし

8. その他特記事項

特になし

活動状況報告書(小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護)

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 登録者の状況

登録者数(12月1日現在)	女性 10名		男性 8名		計 18名	
要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請・区変中
	1名	3名	2名	4名	8名	0名

3. サービス提供回数(会議開催の前月分)

登録者	年齢	通い	泊まり	訪問看護	訪問介護	備考(入所日、退所日など)
ア	59	21	1	2	0	
イ	93	7	4	2	0	H30.6.20入院
ウ	90	27	27	17	1	H30.6.1登録開始
エ	82	22	0	1	0	
オ	71	8	0	10	41	
カ	70	20	0	2	0	
キ	99	18	14	3	65	
ク	90	25	21	18	6	
ケ	98	26	22	7	8	
コ	87	6	5	0	3	H30.6.16入院
サ	80	10	0	5	0	
シ	73	9	0	1	16	
ス	96	19	7	14	0	
セ	80	23	19	0	1	
ソ	55	8	0	0	23	
タ	76	13	1	1	0	
チ	77	30	30	0	0	
ツ	70	13	0	0	8	H30.6.29入院
テ						
ト						
ナ						
ニ						
ヌ						
ネ						
ノ						
ハ						
ヒ						
フ						
ヘ						
合計		305	151	83	172	
平均	80.3	16.9	8.4	4.6	9.6	

(裏面あり)

4. 運営方針

事業所の目標	【利用者の獲得】1. 適切な職員の確保と黒字転換 2. 「ケアの理念」の実現 「ケアの理念」: その人の「生きる」を支える。寄り添い、理解し、尊重する
目標に向けた具体的取組	1. 求人活動と既存の職員が充実した仕事ができ辞めないようにする 2. カンファレンスや記録による情報の共有をしている 3. 利用者や家族の意向を反映した多職種でのケアプランの作成と共有を目指している 4. 研修計画の実施

5. 活動報告

<p>5月7～9日: 健康診断 5月11日: 運営推進会議開催 5月14日: 看多機事業所からの見学 5月19日: 都筑区小規模多機能連絡会参加 6月7日: 看多機建設予定事業所からの見学 6月11日: 平成30年度第2回全体研修会</p>

6. 事故・ヒヤリハット報告

内容 ・ 改善策	<p>1. 施設内での転倒 通所利用で帰宅時間が近づき玄関ベンチで座り迎えを待つことを希望された。夜勤帯のためスタッフは2名、付きつきりはできない状況であった。一人で座って立ち上がろうとし倒れたとのこと。 【原因】 スタッフが少ない時間帯で傍にずっと付き添うことができない状況で、説明をしても納得してもらえない心身の状態ではなかった。玄関ベンチは、デイルームから見えにくく、座面が低いので立ち上がりにくかった。 【対応】 打撲の状況や痛みの状況を確認、転倒前と身体状況は変わりなし。歩行器にてベッドに移動するが歩行状態も変わらない。医師に報告しそのまま様子を見ることになる。30分後に右足を出すことができない足を動かしてほしいと訴えあったが、訴えながら自分で動かすこともできる状態。家族の迎えがあり、状況を説明。翌朝、痛みの訴えはあるが歩行状態はいつもと変化なし。念のために整形外科受診するが、骨折は無いとの診断。 【改善策】 玄関で待つことを希望される時は、デイルームの椅子を玄関前の廊下に移動し、歩行器を前に置き、立ち上がりやすく、又、夜勤者が見え易い環境にする。</p>
内容 ・ 改善策	<p>2. ベッドコントローラーのリスク 【利用者の概要】 認知症ADL全介助、車椅子の利用者。臥床していき近くにあるものを触ろうとするため、ベッドのリモコンは床、又はTV台の横にかけられるようにして危険を回避するように対応をしていた。しかし、当該時には、TVを覗いていたのでTV台をベッドの近くに引き寄せた状態で、ベッドのリモコンはTV台の横にかけて退室したため、次に職員が来室するとベッドのリモコンを手にして、頭をベッドアップしている最中だった。 【原因】 認知症で活動性は低下していたため、活動や認識の状況を把握できていなかった。 【対策】 ベッドのリモコンは、ベッドのフットボードの目の届かないところにおく</p>
内容 ・ 改善策	<p>3. 膀胱留置カテーテルの抜去 【利用者の概要】 膀胱留置カテーテル使用し、歩行は安定しているが、精神遅滞があり見守りが必要な利用者。入浴介助時、浴槽から立ち上がったとき、カテーテルのバルンが膨らんだまま浴槽に沈んでいた。看護師を呼び、尿道からの出血等ないことを確認した。 【原因】 カテーテルを固定するとねじれてしまうため、身体に固定していなかった。カテーテル交換時、同じ太さがなく細いカテーテルが入っていた。 【対策】 カテーテルの固定や座位リフト入浴機を使用し、カテーテルにかかる負荷の軽減をする</p>

7. 地域への情報提供

特になし

8. その他特記事項

<p>・かねてから委員より要望のあった前年度の収支報告を実施した。 当法人には6事業（訪問看護・訪問介護・定期巡回・夜間対応・福祉用具・ナーシングホーム）と兼務者もいるため、収支を単体では出すことが難しい。去年よりは収入は増加したが、他事業所からの繰入金がないと、未だ赤字の状況である。</p>
--